



The Coca-Cola Educational &
Environmental Foundation

2011年8月8日
財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

全国からの応募総数 174 団体の中から 『第 18 回コカ・コーラ環境教育賞』大賞決定！

活動表彰部門 浦添市立港川小学校(沖縄県浦添市)

次世代支援部門 青森県立名久井農業高等学校

チーム・フローラフォトニクス(青森県南部町)

8月6日 雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスにて最終選考実施

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団(所在地:東京都港区 理事長:末吉 紀雄)は、去る8月6日、「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」(北海道夕張郡栗山町)において、『第18回コカ・コーラ環境教育賞』の最終選考会を実施いたしました。最終選考会には、全国174の団体から選出された小学生から高校生までの15の団体が参加し、各団体が手掛ける環境活動の実績や成果、今後の企画を発表。厳正な審査の結果、『第18回コカ・コーラ環境教育賞』の2つの部門で、「浦添市立港川小学校(沖縄県浦添市)」「(活動表彰部門)」と、「青森県立名久井農業高等学校 チーム・フローラフォトニクス(青森県南部町)」「(次世代支援部門)」とが、それぞれ大賞を受賞いたしました。

コカ・コーラ環境教育賞は、1994年の賞設立から18回目を数え、これまで環境ボランティア活動の助成・支援を通じた環境教育・環境保全活動の促進を目的として、国内の環境教育分野の推進に大きく貢献しています。同賞は、小中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育・環境保全活動実績を顕彰する「活動表彰部門」と、高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援をする「次世代支援部門」の2部門で実施しております。

本年度は、174団体(活動表彰部門115団体、次世代支援部門59団体)の中から選ばれた15団体(活動表彰部門10団体、次世代支援部門5団体)が8月6日の最終選考会に臨み、大賞が決定いたしました。

【第18回コカ・コーラ環境教育賞 受賞結果】

■ 「活動表彰部門」大賞

浦添市立港川小学校(沖縄県浦添市)

活動内容:

地域の海の生態系の学習、自然環境の保護・保全活動などに取り組む。地域の自然に触れて学んだ環境保全の必要性を、児童が保護者や地域の人々向けの発表会などを通して発信。専門家との連携を図りながら、環境教育を継続的に実施している。

■ 「次世代支援部門」大賞

青森県立名久井農業高等学校 チーム・フローラフォトニクス(青森県南部町)

活動内容:

津波被害を受けた絶滅危惧種サクラソウの採種を県と共に実施し、貴重な生物資源として保存。増殖後は株を保存する市民参加型の保護活動につなげる。さらに、塩害を受けた花壇の早期再生のために新しい除塩と土壌改良技術を開発し、花壇や農地の復旧活動に取り組む。

【第18回コカ・コーラ環境教育賞 選考委員長 総評】

■ コカ・コーラ教育・環境財団 財団理事 小澤 紀美子(こざわ きみこ)氏

「コカ・コーラ環境教育賞」は年々応募団体の活動に、質の向上が顕著にみられている。各団体ともプレゼンテーションの表現力が向上している上に、しっかりと内容が伴っているため、最終選考会の審査は難を極めた。参加団体自身にとって身近な問題を入り口として、そこから広がりのある活動をしているのが印象的であった。

活動表彰部門においては、各団体が、命と自然、人との繋がりを認識できる活動を進めていた。大賞を受賞した団体は、地理的な特性を押さえて、生命を守るというテーマを設定した上で、地域を巻き込んで活動を進めた実践力が評価された。

次世代支援部門においては、地域に密着した課題に基づいて、地域の活性化につなげる活動をしており、特に大賞受賞団体は、着眼点を具体的な知識に基づいて実践していく力に加え、活動にスピード感があった。日本社会全体が内向的になっていると言うが、そうではないことを高校生が教えてくれたように思う。

今回最終選考会に参加してくれた若者たちが日々努力し、素晴らしい実践を行っていることが分かり、未来に対して明るい展望が持てた。継続は力なりと言うが、この言葉の通り、環境活動を続けていくことが欲しい。同時に次世代に繋げていく為に、活動について様々な発表や文書で表現するなど、広く訴えていくことにチャレンジしていただきたい。

【第18回コカ・コーラ環境教育賞 優秀賞受賞団体】

活動表彰部門（対象：小中学生及びその指導者）		
富山県	氷見市立十二町小学校(氷見市)	オニバスの栽培研究、絶滅危惧種イタセンパラの飼育研究、白鳥の観察を長年継続して実施。2009年に、国内初となる学校でのイタセンパラの人工孵化に成功した。動植物の研究を大学や行政、有識者の指導を受け、家庭や地域と連携・協力して活動している。学習発表会やホームページで研究成果を情報発信している。
福岡県	北九州市立曾根東小学校(北九州市)	干潟の清掃・体験学習を、1993年から地域を巻き込んで継続的に実施。児童の発案で始まった「曾根干潟クリーン作戦」は、保護者・漁協・自治会・保育園・行政・企業など、総勢600名を超える地域の一大イベントとして根付いている。また、子供にも実践可能なCO2削減方法を考えるなどの活動にも取り組む。
茨城県	牛久市立牛久第三中学校(牛久市)	「牛久沼の環境を知ろう」をテーマに、科学的・社会的に調査する方法を体験プログラム化。季節ごとに生き物・植生・水質の調査を実施。牛久沼の環境を改善する方法を探るため、学校のプールをビオトープ化し、牛久沼再生モデル実験を行う。「うしくサイエンス・フェスタ」などで活動内容の発表や環境改善の提案を行っている。
北海道	リバーネット21ながぬま(長沼町)	小中学生を対象に、河川環境啓発活動を実施。長沼町が、過去多くの水害に悩まされてきた背景から、水辺環境の重要性を伝えるために自然体験学習の支援を行っている。河川に関わる関係機関と連携し、河川環境の調査・研究活動にも取り組んでいる。
青森県	南部町立名久井小学校(三戸郡)	多彩な水環境保全活動を実施。水生生物調査、如来堂川クリーン作戦、源流観察、サケの稚魚放流などに取り組んでいる。リサイクルおもちゃ作り、廃油石鹸作りを行う「環境学習」や、全校で緑のカーテン作りを行うなど、多岐にわたる活動を行っている。
京都府	京都市立蜂ヶ岡中学校(京都市)	植栽活動を中心に地域を巻き込んだ環境活動を実施。2005年から環境教育の取り組みを充実させ、植栽活動・節水・節電・雨水タンク・伐採木の再利用・エコキャップ・空き缶回収・緑のカーテン・環境カルタ・廃油せっけんなど、多岐に渡る環境活動を展開。
熊本県	熊本市立清水小学校(熊本市)	「緑を愛し育て守る清水っ子」を目標に活動を展開。地域と協力し、自然とふれ合う活動(緑化活動、樹木札作りなど)やエコ活動(堆肥化マシン、雨水くんなど)、エコ学習に取り組み、循環型の社会を目指した活動を行っている。

愛知県	刈谷市立小垣江小学校(刈谷市)	「ホタルがいっぱい飛ぶ小垣江にしたい！」という願いのもと、幼虫の飼育活動をはじめ、校内のホタル池作り、地域を流れる川や湧水池の水質検査、清掃、外敵駆除など、子供たちが考えた方法でユニークな活動を行っている。また、介護老人施設へのホタル幼虫プレゼントやホタル新聞の発行など地域へ情報発信し、昨年度、これらのレポートは環境省に提出。
北海道	NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭(室蘭市)	2006年からビオトープの造成を進め、今春で造成計画を完了。トンボやミズカマキリやガムシが定着し、ホタル復活も実現。「ビオトープ・イタンキ」は「獲物のあるビオトープ」として、子ども達が自由に採集もできる自然体験の場となっている。水域が充実し、小学生の授業として観察会(トンボ捕りや魚すくい)や自然体験の受け入れも可能になってきている。
次世代支援部門 (対象:高校生・大学生)		
京都府	京都府立桂高等学校 バイオテクノロジー部(京都市)	コケ植物によるヒートアイランド現象の緩和と普及活動。コケ植物の持つ、軽量、管理の容易さ、乾燥にきわめて強い性質を活用し、壁面緑化からヒートアイランド現象の緩和を図る。そして、この研究の成果を小学生や中学生さらに一般の方々にも紹介し、普及に努める。
石川県	石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊(津幡町)	トキと共生する里山の再生、啓発活動。食・農・環境を関連づけた学習を行うとともにトキへの関心を高める啓発を実施。イネやマコモ(多年草)を無農薬で栽培、トキや野鳥の餌場を作る。また町内小中学校など25カ所にバケツマコモを配布し、環境学習に使用してもらう。
栃木県	栃木県立栃木農業高校 地域おこしプロジェクト班(栃木市)	水生植物のヨシから堆肥を考案、足尾銅山の土壌改善に役立てる。足尾銅山は鉱毒事件以降環境が悪化した。遊水地一帯は現在ヨシの湿原となっている。そこで、従来雑草化し廃棄されていたヨシを、堆肥として使用することで、足尾銅山の土壌改善と緑化を図っていく。
兵庫県	兵庫県立播磨農業高等学校 サイエンス部(加西市)	地元小学校と連携し、絶滅危惧種の水生植物、ミズトラノオの保護活動を展開。加西市に自生するミズトラノオは環境省のレッドリストに指定されており、同市は関西で確認できる唯一の自生地。校内では株の増殖を実践し、昨年度からの小学校との連携教育を今年度も実施。

【第18回コカ・コーラ環境教育賞 概要】

名称	第18回コカ・コーラ環境教育賞
主催	財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
後援	文部科学省、環境省
部門	<活動表彰部門> 小中学生とその指導者を対象として環境教育・環境保全活動の実績を顕彰
	<次世代支援部門> 高校生および大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価、支援
支援内容	<活動表彰部門> 大賞(1組 活動助成金 50万円 優秀賞(9組) 10万円
	<次世代支援部門> 大賞(1組 企画支援金 100万円 優秀賞(4組) 30万円

参考資料 最終選考会／表彰式の様子(大賞受賞団体)

■ 最終選考会

- 活動表彰部門 大賞受賞団体
浦添市立港川小学校(沖縄県浦添市)



- 次世代支援部門
青森県立名久井農業高等学校 チーム・フローラフォトニクス(青森県南部町)



■ 表彰式

「第18回コカ・コーラ環境教育賞」最終選考会は、2011年8月6(土)、北海道夕張郡栗山町の「コカ・コーラ環境ハウス」にて行われ、15のノミネート団体が日頃の成果や今後の取組みについて発表し、その中から両部門の大賞受賞団体が決定しました。表彰式では、コカ・コーラ教育・環境財団の理事および選考委員、スペシャルゲストの競泳の北島康介選手より、受賞15団体の代表者に目録が贈呈されました。



活動表彰部門 大賞受賞団体
浦添市立港川小学校(沖縄県浦添市)



次世代支援部門 大賞受賞団体
青森県立名久井農業高等学校
チーム・フローラフォトニクス(青森県南部町)